

靜宜大學與日本未來大學跨國合作受矚目 登日本「朝日新聞」

2020-03-16 [記者歐素美／台中報導]



靜宜大學與日本未來大學多年交流，互相合作。（記者歐素美攝）

靜宜大學與日本北海道函館「未來大學」跨國合作，登上日本「朝日新聞」，報導中詳細介紹兩校特色及交流內容。靜宜校長唐傳義指出，希望將兩校優勢的地方創生、教學機制及人工智慧等策略推向國際，共創跨國、跨領域競爭力！

唐傳義表示，大學要多瞭解各國不同學習模式，才能突破盲點，跨國交流就是很好的方式！靜宜與未來大學合作多年，兩校許多策略及理念「不謀而合」，也透過「台日科技與地方創生論壇」等活動，分享研究成果。

唐傳義說，「未來大學」成立於2000年，是深具特色的公立大學，最著名的「開放式學習空間」，能增進師生、同儕的互動、學習及交流；「專題式學習」，則讓學生走出校園，發現社區的需要及解決方法。

未來大學校長片桐恭弘在報導中指出，與靜宜大學合作緣於2015年在台北所舉辦的「設計工作坊」。靜宜校方對未來大學「資訊構築學科」教授岡本誠的簡報印象深刻，尤其是「專題式學習」，學生除課堂學習，也鼓勵走入社區、人群與社會，實際從事研究及教育等活動。並能結合理論與實務，學習團隊合作，針對所發現的問題尋找解決的方法。

「未來大學」特色在於實體建築空間規劃、特色課程設計、師生研究專案、地域產學合作等，獲獎無數，畢業生就業率並高達九成五以上。

唐傳義指出，靜宜與未來大學兩校最大的共通點是以地方創生、發展與需求作為課程主題。靜宜長期推動地方創生，目前超過50位教師協助特色鄉鎮，塑造地方意象，藉此帶動觀光，也成為學習基地。

唐傳義說，兩校在推動AI（人工智慧）應用及教學的理念也相同，未來大

學為公車無法到達的偏鄉，設計 AI 機制設計派車系統，方便不同縣市老人搭車就醫；靜宜 AI 及大數據研究團隊，也與新北市的醫療體系合作，推動智慧車隊，優化「智慧醫療車隊」的派遣服務與臨床診斷應用分析，以提升醫療品質。

唐傳義表示，靜宜有 1 萬 2 千多位學生，規模是未來大學的 4 倍，兩校嘗試進行專題式、跨領域學習等合作策略，希望日後在更多專題式體驗及人工智慧等領域互相切磋。

2020年(令和2年)1月24日(金) 13版 道内 26

解決力培う教育 台湾から熱視線

「台湾にも『はこだて未来大学』をつくりたい」。台湾の静宜大学（台中市）からこんなラポールが送られている。公立はこだて未来大学（函館市）の片桐恭弘学長は「新しい研究や教育に取り組んでいる自負はある。大変ありがたい評価をいただいた」と喜ぶ。台湾の大学がなぜ、地方の公立大に注目するのか。

静宜大の関係者が未来大の存在を知ったのは、2015年春のこと。未来大が台北で開かれたデザイン関係のワークショップに参加した。その発表を聴講していた静宜大の研究者が、現地には岡本誠・未来大教授（デザイン学）に「そちらの大学の取り組みに興味がある」と声をかけた。その年の5月には静宜大の唐伝義学長らが視察に来た。静宜大側が関心を示したのは、未来大の教育の柱の一つ「プロジェクト学習」だ。学生

「教わるのではなく、自らリサーチを行い、何を課題として取り上げるか、テーマ設定から主体的に考える。自ら問題を発見し、解決していく力を養うことに主眼がある。教員の役割も、普通の授業とは異なる。「教える」というよりは、対話を通して学生が自ら「気づく」ように導く。専門分野の異なる教員が複数でチームを組んで指導にあたる」という。

16年冬には、静宜大の研究者や学生十数人が函館を訪れ、未来大や地元の高校生とともに「函館を訪れる高校生のためのバリエーション」についてのワークショップや討論会に取り組んだ。昨年2月には、静宜大のチームが秋葉原の発表会に初めて参加した。

昨年12月12、13日、静宜大では「台日科学技術・地方創生フォーラム」が開かれた。このなかで、未来大の教育・研究に注目した「静宜大情報学院（学部）が未来学部になるのを想像しよう」と題した学部改革の討論会も開かれている。

岡本教授は「日本と台湾には共通の課題が多い。もっと一緒に研究を取り組めると話す。片桐学長は「私たちがとって、静宜大との連携はチャンスだ。研究者や学生の訪問や交換留学が増えることを期待している」と語った。

（二木一哉）

静宜大「台日共通の課題解決へ、参考に」

静宜（ジンイー）大学
台湾のカトリック系私立大学。戦前、米国人修道女が中国に設立した学校を内戦後、台湾で再建、女子大を経て1993年に共学となった。学部にあたる「学院」は外国語、人文・社会科学、理学、情報学などがあり、約1万2千人の学生が学ぶ。

公立はこだて未来大学
2000年開学、システム情報科学部をのみの情報系単科大学。大学院を含め学生は約1200人。函館市、北斗市、七飯町の2市1町の函館圏公立大学広域連合が大学法人を運営。課題解決型の「プロジェクト学習」は02年度に始まった。

公立はこだて未来大学「はこだて未来大プロジェクト学習」

「台湾にも『はこだて未来大学』をつくりたい」。台湾の静宜大学（台中市）からこんなラポールが送られている。公立はこだて未来大学（函館市）の片桐恭弘学長は「新しい研究や教育に取り組んでいる自負はある。大変ありがたい評価をいただいた」と喜ぶ。台湾の大学がなぜ、地方の公立大に注目するのか。

静宜大の関係者が未来大の存在を知ったのは、2015年春のこと。未来大が台北で開かれたデザイン関係のワークショップに参加した。その発表を聴講していた静宜大の研究者が、現地には岡本誠・未来大教授（デザイン学）に「そちらの大学の取り組みに興味がある」と声をかけた。その年の5月には静宜大の唐伝義学長らが視察に来た。静宜大側が関心を示したのは、未来大の教育の柱の一つ「プロジェクト学習」だ。学生

「教わるのではなく、自らリサーチを行い、何を課題として取り上げるか、テーマ設定から主体的に考える。自ら問題を発見し、解決していく力を養うことに主眼がある。教員の役割も、普通の授業とは異なる。「教える」というよりは、対話を通して学生が自ら「気づく」ように導く。専門分野の異なる教員が複数でチームを組んで指導にあたる」という。

16年冬には、静宜大の研究者や学生十数人が函館を訪れ、未来大や地元の高校生とともに「函館を訪れる高校生のためのバリエーション」についてのワークショップや討論会に取り組んだ。昨年2月には、静宜大のチームが秋葉原の発表会に初めて参加した。

昨年12月12、13日、静宜大では「台日科学技術・地方創生フォーラム」が開かれた。このなかで、未来大の教育・研究に注目した「静宜大情報学院（学部）が未来学部になるのを想像しよう」と題した学部改革の討論会も開かれている。

岡本教授は「日本と台湾には共通の課題が多い。もっと一緒に研究を取り組めると話す。片桐学長は「私たちがとって、静宜大との連携はチャンスだ。研究者や学生の訪問や交換留学が増えることを期待している」と語った。

（二木一哉）

静宜大「台日共通の課題解決へ、参考に」

静宜（ジンイー）大学
台湾のカトリック系私立大学。戦前、米国人修道女が中国に設立した学校を内戦後、台湾で再建、女子大を経て1993年に共学となった。学部にあたる「学院」は外国語、人文・社会科学、理学、情報学などがあり、約1万2千人の学生が学ぶ。

公立はこだて未来大学
2000年開学、システム情報科学部をのみの情報系単科大学。大学院を含め学生は約1200人。函館市、北斗市、七飯町の2市1町の函館圏公立大学広域連合が大学法人を運営。課題解決型の「プロジェクト学習」は02年度に始まった。

静宜大學與日本北海道函館「未來大學」跨國合作，登上日本「朝日新聞」。（靜宜大學提供）